

共生 伝え受け継ぎ

多くの聴衆が詰めかけた第3回毎日地球未来賞の記念講演会
—大阪市北区の毎日新聞大阪本社オーバルホールで



地球規模の課題である食料・水・環境の問題解決に取り組む個人や団体を顕彰する「第3回毎日地球未来賞」(毎日新聞社主催、内閣府など後援、クボタ協賛)の表彰式と記念講演会が、大阪市北区の毎日新聞大阪本社オーバルホールであった。毎日地球未来賞に輝いた東京都世田谷区のNPO法人「熱帯森林保護団体」の南研子代表と、クボタ賞に選ばれた有有限会社「土遊野」(富山市)の橋本順子取締役、次世代応援賞の山陽女子中学・高校地歴部(岡山市)の井上貴司顧問らによる講演内容を紹介する。クボタ賞の一般社団法人「ReRoots」(仙台市)の広瀬剛史代表理事には寄稿を受けた。「文・遠藤孝康、松井聡、写真・金澤悦」

大阪で表彰式・記念講演

毎日地球未来賞



熱帯森林保護団体

南 研子 代表(66)

1989年から活動を始め、92年に初めてアマゾンの現場に入りました。電気、ガス、水道はありません。お風呂は川です。ただ、私たちの負の部分と言いますか、自殺もいじめも殺人もあります。文明の発展って何だろうなと思います。

現場に行くまでは、食べ物はどういうプロセスを経て、自分の口に入るかわかりませんでした。貨幣制度という便利な制度があるからです。最初、お金を出して「魚を売ってほしい」と言ったら「こんなもの食えないじゃないか」と断られました。自分で食べたかったら自分でとる。彼ら

アマゾンで学ぶ 文明の発展って何

はプロセスを分かっているのです。長老たちが森に入り、猿に弓矢を放ち、瀕死の状態で見ます。てくる。子供たちも一緒です。それを焼いて、1時間もすれば胃の中に入る。猿にも私たちと同じように命があるということをお大人が行動で知らせます。私たちが人として大事なことを彼らから学んでいます。支援という言葉は好きじゃありません。彼らと同等の立場に立ち、私たちにないものをもらい、その逆を行う。本当の意味でのシェアリングとはこういうことかなと思います。その心がけを忘れず、なお一層精進していきます。